

# STEP3

Association of Assessment & Cartification  
for Social Benefit Organizations Handbook



社会的認証 [ステップ3] ハンドブック

# 社会とNPOの良い関係をつむぐ。 それは社会をより良くすること。

SINCE 2011

公共サービスや公益活動はもはや行政だけが担うのではなく、多くの市民が主体的に関わり、多様なニーズに対応するようになってきています。人々が関心のある社会課題に直接向き合い、関わることのできる環境を整え、より活動を促進するため、1998年にNPO法が制定され、現在では5万件近いNPOが法人格を取得し、活躍しています。

しかし、法人格を取得している団体においても、活動の内容がよく分からない団体や、活動の実態が見えない団体もあり、「NPO法人の取得＝信頼できる団体」とは言えない状況が生まれています。社会の小さなチカラを大きなチカラに変えていくために「信頼できるNPOを支援したい」「信頼できるNPOと協働したい」という声に応え、それぞれのNPOの「信頼性」を確認し、示していくことが今後ますます重要になっていくでしょう。

そして、社会とNPOの良い関係をつむいでいくためには、「信頼性のある公益性の高いNPO」の姿を明らかにしていくことが求められています。

社会的認証開発推進機構(以下、AAC)は、NPOの「信頼」を社会全体と共有することによる「成果」を実感することで、「市民が支える市民社会の実現」を目指して誕生した機関です。

このガイドブックは、その仕組みを説明するためのもので、社会的認証を得るために必要なステップ1からステップ3までのうち、特に「ステップ3」認証取得を中心に説明した内容となっています。



ABOUT  
AACとは

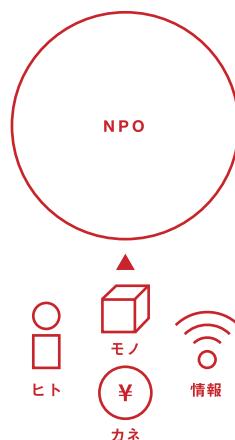
AROUND

# 50000

全国の特定非営利活動法人(NPO法人)の総数は46,160件／内閣府「NPOホームページ」より(2012年8月現在)  
総数は増加傾向にあり50,000件に近づきつつあります。

## NPOの姿を明らかにすること、 それが成長への一歩になります。

がんばっているNPOの姿を社会に示していくために、組織の評価・認証・コンサル機能を担う機関としてAACは、中間支援機能を担うきょうとNPOセンターと市民ファンドである京都地域創造基金の支援のもとに設立し、ここに3者連携となる「Kyoto Initiative」が誕生しました。市民ファンドによる「新しいお金の流れ」のなかでNPOを支援する仕組を活かすために、「信頼できる公共性の高いNPO」の姿を明確に示す両輪的な機能が必要だったので。NPOの信頼を「可視化」させていくことは、社会の共感を得て、社会と共に活動を推進していくための前提となるものであり、ここから「対話と交流」が生まれていくものと考えています。





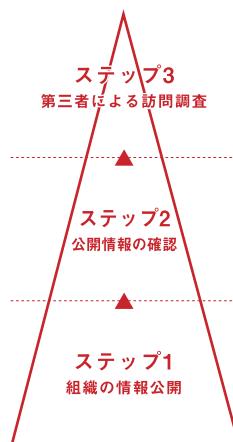
## ステップ1～3へと段階を経て、 NPOは第三者認証を取得します。

AACが設定した評価基準を用い、「信頼性のある公共性の高いNPO」を認証するする仕組みには3つの段階があります。ステップ1～2では、組織の情報開示と開示情報の確認。最終段階のステップ3では、専門性を有する第三者が訪問調査(サイトビギット)を行うことで、客観的な視点が担保されます。その手法は監査的なものではなく、組織の現時点における課題や到達度を自ら確認でき、目標設定ができるような「エンパワーメント的手法」を採用しています。さらに、ステップ3の特徴に



▲「ステップ3」  
認証マーク

「\*ピア・レビュー」型のシステムを取り入れています。ステップ3認証団体の方が違う団体の訪問調査や審査に参画することで、認証を受ける側もシステムの「協働構築者」となります。



※P7参照

STEP1-2 OUTLINE

ステップ1-2 概要

1. 2. 3

ステップ1-2

## 社会的認証への第一歩って何? まず情報公開から始めましょう。

ステップ1【ガイダンス認証】(認証期間 1年毎に更新)

組織の情報公開を推進)ステップ1は団体の活動に関する基本情報、事業報告書、決算報告書などを公益活動ポータルサイト「きょうえん」に公開します。

ステップ2【ヒアリング認証】(認証期間 1年毎に更新)

〈開示情報と組織状況の確認〉

ステップ2はポータルサイトを運営する事務局によって、サイト内の掲載内容が現在の状況と一致するかどうかを確認されます。



▲公益活動ポータルサイト きょうえん

情報発信



事務局  
確認

きょうえん



団体情報



京都府内の団体には「きょうえん」、他府県の団体には、団体HP、ブログ、SNS等での情報公開が求められます。

STEP3 OUTLINE  
ステップ3 概要

ステップ3

みなさん準備はできましたか？  
ここからが本当のスタートです。

**ステップ3[第三者評価による認証]**  
第三者の訪問調査に基づく組織状況の評価と認証

AACに登録するナビゲーター（訪問調査者）が団体を訪問し、組織状況等を調査・確認したうえで、審査委員会を通じて認証の可否が決定されます。



- ステップ2認証後、3ヶ月以上経過した団体を対象に申請受付  
ただし、組織決算を2期以上経過している団体及び本機構が経過月等に関係なく認めた場合を除く。
- 認証期間：2年毎に更新
- 認証費用：認証にかかる経費(50,000円)、交通費(実費)  
認証料(50,000円)



STEPS SYSTEM  
ステップ3 実施体制

# 大 3、

ステップ3は京都発・全国初の  
民間が運営する認証システムです。

● 認証機関(AAC)

AACが事務局機能を担い、認証にかかる運営業務を行う。

● ナビゲーターによる訪問調査

□ 訪問調査は、AACに登録したナビゲーターが2名で行う。

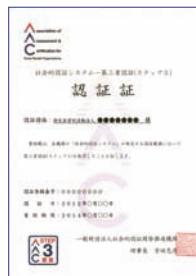
□ ナビゲーターは、自己評価(セルフ・レビュー)に基づいた評価基準50項目の確認を行う他、相対的な組織状況の確認を行う。

□ ナビゲーターは、訪問調査終了後、審査報告書を作成し、どちらか1名が訪問調査報告者として審査に参画する。

● 審査委員会の設置

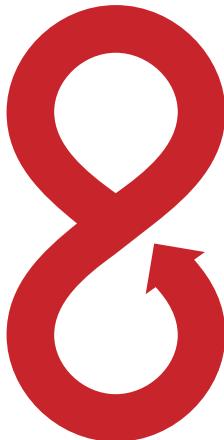
□ 認証のための審査は、正・副両審査委員長および、審査員1名、ナビゲーター1名の計3名以上で構成・成立とし、審査を行う。

□ 認証は、審査委員会の審査結果に基づき、AACが行う。



▲「ステップ3」認証証

STEP3 SCHEME  
ステップ3スキーム



## セルフ・レビュー➡ピア・レビュー ステップ3取得への8つの道のり。

- 1 ● ステップ1-2の認証
- 2 ● 申請団体とAACが認証にかかる「協定」を結ぶ
- 3 ● 申請団体が評価基準に基づき、  
自己評価を行う(セルフ・レビュー)  
(希望に応じて認証・認証継続に向けてのコンサルテーションを実施)
- 4 ● 自己評価に基づき、ナビゲーター  
(主査1名、副査1名の計2名)が訪問調査
- 5 ● ナビゲーターにより審査報告書が作成  
審査委員会へ提出
- 6 ● 認証可否の審査・通知  
(認証不可の場合、すぐに再申請可)
- 7 ● 認証結果と認証情報のレビュー
- 8 ● 社会的認証システムへの参画(ピア・レビュー)

### ピア・レビューとは?

同じ立場の者による評価のことです。ステップ3取得団体が研修を経て、別の団体の訪問調査や審査に参画するシステムです。



▲ステップ3取得団体との評価基準等検討委員会の様子

STEP3 TECHNIQUE

ステップ3 評価手法

100%

組織状況を達成率として数値的に可視化できる客観的・明確な評価。

目的

- 団体が自らの説明責任を果たせること
- 団体の客観的情報公開を行うこと
  - ▶ 市民・企業・行政等、NPOを取り巻く多様なステークホルダーに対しても客観的で信頼できる(根拠に基づいた)情報の提供および一定の信頼確保を可能にすること。

考え方

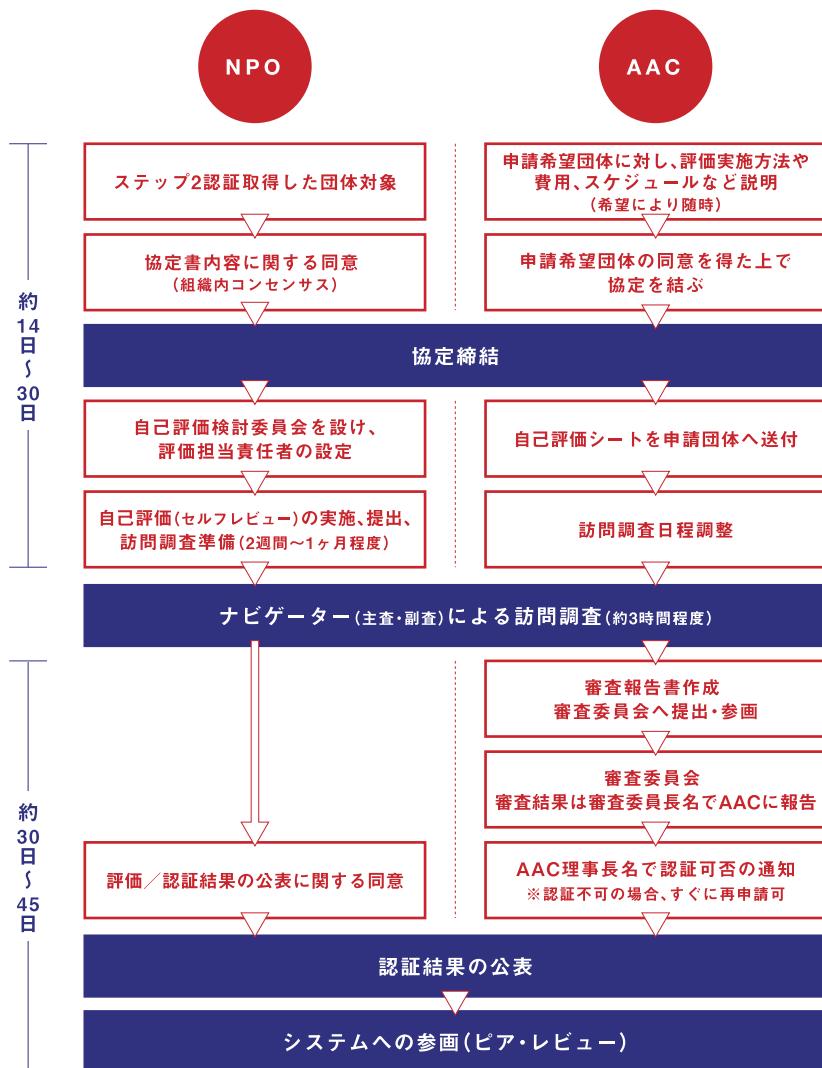
- 評価項目をすべてクリアしないと認証に結びつかない「監査的手法」ではなく、組織として現時点における課題等を認識できる「エンパワーメント的手法」
- 次の達成すべき目標が定められ、組織基盤の強化・持続可能な組織デザインをイメージできる内容

評価方法

審査は絶対評価と相対評価により総合的に判断します。

〈絶対評価〉エヴァイデンス(評価根拠)を明確に設定し、全ての評価項目を数値として可視化したもの	〈相対評価〉ナビゲーターが評価基準外に見受けられた組織の印象、将来性、期待値、可能性、頑張り等を所見としてまとめたもの
---	---

STEP3 NAVIGATE SHEET  
ステップ3 ナビゲートシート



**STEP3 CHECKLIST**  
**ステップ3 評価項目**

大項目 (6分類)		(社会的使命) 組織ミッションと 事業の推進	組織と経営管理	事務局の執 会計全般
中項目 (13分類)		組織ミッションとガバナンス	職員と労働環境	組織・事務局体制の確立
小項目 (50分類)		組織ミッションと事業の策定	適切な財務計画と執行・管理	ルールに基づいて適切な管理がなされている 現金の支払いや受取りについてのルールがある
		<p>(社会的使命) 組織ミッションの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 単年度計画の策定は組織的なコンセンサス(合意形成)に沿って進められている</li> <li><input type="checkbox"/> ミッションとの整合性に基づく単年度事業計画が策定されている</li> <li><input type="checkbox"/> 組織ミッションに基づく中長期的なヴィジョン・計画が策定されている</li> <li><input type="checkbox"/> 組織ミッションに基づいた公益的な事業が推進されている</li> <li><input type="checkbox"/> 非営利組織としての位置づけが明確に示されている</li> <li><input type="checkbox"/> 組織ミッションが明確に示されている</li> </ul>	<p>適切な財務計画と執行・管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 税制に関する監査(主に会計監査)の実施をしている</li> <li><input type="checkbox"/> 理事や役員等は、組織の財政基盤・経営環境を把握し、適切な管理を行なっている</li> <li><input type="checkbox"/> 総会等、広く会員(社員)に対して、最終的な意志決定に関わる機会をもついている</li> <li><input type="checkbox"/> 組織の理事会、役員会等および執行事務局は、コンプライアンス(法令遵守等)の観点から組織として取組みを推進している</li> <li><input type="checkbox"/> 組織の理事会、役員会等の意向に基づいたガバナンス(統治)体系が確立している</li> <li><input type="checkbox"/> 組織の理事会、役員会等(意志決定機関)が置かれ、明確に機能している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 人材育成に積極的に取り組んでいる</li> <li><input type="checkbox"/> 職員、非常勤職員、アルバイト等の職制・役割の違いを明確にし、職制に応じて適切な労働環境に努めている</li> <li><input type="checkbox"/> 労働環境の整備を行っている</li> <li><input type="checkbox"/> 就業規則等、労働環境に関する規定に基づいて、職員の就業状況を適切に把握し、管理している</li> </ul>

行体制と管理	社会資源の活用	情報の公開と社会的信頼	組織のリスクマネジメントと社会的責任の追求
事業を推進するための体制やルール	(企業／行政／市民など) 社会資源の連携と活用	情報の公開	組織のリスクマネジメント 組織の社会的責任の追求
<p>□ 経理や会計に関する専門的な知識やスキルをもった担当者やアドバイザーがいる</p> <p>□ 組織的なルールに沿って、事業の評価を定期的に行っている</p> <p>□ 組織的な手続きやルールに基づいて、各事業が執行されている</p> <p>□ 事業実施の成果を、多様なステークホルダー（利害関係者）と共有している</p> <p>□ 単年度事業計画に基づき、事業が適切に遂行されている（実施／遂行度）</p>	<p>□ 市民から物品提供や寄付等に関する実績について</p> <p>□ 政府・行政との協働の実績について（政府セクターとの協働）</p> <p>□ 企業団体との協働の実績について（企業セクターとの協働）</p> <p>□ 他のNPOや市民活動団体、大学等との協働の実績について（同セクター内の協働）</p> <p>□ ボランティアや協力者の受入れを積極的に行っている</p>	<p>□ 民間財団や行政等のアワード（表彰）事業等を受けたことがある</p> <p>□ 組織および事業内容・活動内容が社会的意義の重要性から特筆的に、メディアによつて紹介されたことがある</p> <p>□ 審査・評価に基づいて、財団や企業から助成金の給付を受けたことがある</p> <p>□ 行政等公共性の高い機関から、組織や事業への認証・評価を受けたことがある</p> <p>□ 支援者・寄付者その他、多様なステークホルダーに対して、確実に情報提供を行っている</p> <p>□ フロー情報（活動状況等、常に変化する情報）について公開し、常態的に更新している</p> <p>□ ストック情報（常態的には変化のあまりない組織情報等）について公開し、必要に応じて更新に努めている</p> <p>□ 組織の基礎情報や事業成果について、多様に公開する手段がある</p>	<p>□ 環境に関する取組みについて定期的に評価が行われており、課題や次の目標が明確に示されている</p> <p>□ 環境的持続性の観点から、環境に配慮負荷の軽減に関する取組みを行っている</p> <p>□ 本来の事業とは別に、新たな市民社会の創造にむけて組織としての考え方を表明し、取り組んでいる</p> <p>□ リスクマネジメントに関する内部研修や教育の機会がある</p> <p>□ 事業・活動に対するリスク対応をしている</p> <p>□ 個人情報に関する取り扱い規定がある</p> <p>□ 重要なデータ等の情報管理が適切に行なわれている</p> <p>□ 重要な書類等の保管は適切に行われている</p>

MERIT  
認証取得のメリット

# 社会的認証がもたらす「plus-X」

## + FUNDRAISING

ファンドレイジング(資金調達)を  
促す仕組みを構築できます。

## + TRUST

企業や助成団体からの支援を  
受けやすくする環境整備につなげます。

## + PARTNERSHIP

多様なステークホルダー(企業、行政、財団等)との  
協働関係の構築につなげます。

## + IMPROVEMENT

客観的な視点から組織運営や事業計画等を  
見直すきっかけとなり改善を促すことができます。

## + REVIEW

認証状況を公表することで、寄付者や多様な  
支援者等にも客観的な情報を届けることができます。

社会的認証ステップ3の取得を考えている  
団体は社会的認証開発機構(AAC)へGO!!

詳細はWEBへ  
<http://withtrust.jp>

社会的認証





## STEP3 CERTIFIED

---

実際に認証を取得した団体に話を聞いてみました。なぜ認証を取得しようと思ったのか。そして、認証を得たことで変化はあったのか。同じように活動している団体の生の声こそ、この評価システムの根幹に関わるものであるはずです。

### VOICE.1

特定非営利活動法人  
気候ネットワーク

### VOICE.2

特定非営利活動法人  
山科醍醐こどものひろば

### VOICE.3

特定非営利活動法人  
京都子どもセンター

STEP3 CERTIFIED

# KIKO NETWORK

PHOTO / SHUNSUKE OSAKI



特定非営利活動法人

## 気候ネットワーク

気候ネットワークは、地球温暖化防止のために市民の立場から「提案×発信×行動」するNGO/NPOです。地球温暖化防止京都会議(COP3)を成功させるために活動した「気候フォーラム」の趣旨・活動を受け継いで、1998年4月に設立されました。わたしたちは、ひとりひとりの行動だけでなく、産業・経済、エネルギー、暮らし、地域等をふくめて持続可能な社会へと変えるために、地球温暖化防止に関わる専門的な政策提言、情報発信とあわせて地域単位での地球温暖化対策モデルづくり、人材の養成・教育等に取り組んでいます。

—

代表者: 浅岡美恵

所在地: 京都市中京区帯屋町574番地 高倉ビル305

T E L: 075-254-1011

F A X: 075-254-1012

W E B: <http://www.kikonet.org>





VOICE.1  
気候ネットワーク

## 組織の強み・弱みを認識する。

TEXT／芝 浩市（気候ネットワーク）

### — 強み・弱みが「見える化」する実感

第三者認証はAACが開発した評価シートをもとに組織内で自己評価を行うところからスタートします。認証に携わった担当者はこのプロセスで自分の組織の強みを知り、弱みを痛感することになります。具体的なエヴィデンス（評価根拠）をそろえていく段階で、おのずと「できていること」と「できていないこと」が明確になっていく、日頃仕事をする中で何となく感じていた組織のミッションと事業・業務の関係性の不整合や矛盾がはっきり見えてくるのです。AACは「自己評価の手引き」の最初に「組織内で、自己評価検討委員会を設け、評価担当責任者を設定してください」といっています。自己評価が団体の代表や事務局長、あるいは特定の担当者だけで実施されたものではなく、組織内の多くの人たちが参画して行われるものであれば、このプロセスが共有されることによって得られる「気づき」はたいへん価値のあるものになります。AACのナビゲーターによる訪問調査は、自己評価が合理的に行われたか、自己評価に何らかのバイアスが働いていないかを客観的に診断し、是正することを目的として実施されます。実際のところ、

その雰囲気は審査・監査にありがちな冷徹なものではなく、コンサルテーションにおいてアドバイスをうけるような形式で進められるので、評価される側としては、ナビゲーターとの話し合いのうえで納得して組織の強み弱みがより『見える化』していく実感があります。

### — 第三者認証に期待すること

私たちは、認証を取得することによって対外的な信用保証が得られる効果も期待しています。しかし、認証を取得したからといって、たちまち寄付が増えるわけではありません。自治体の事業を簡単に受託できるようになるわけでもありません。こういった取り組みは、組織にとっての即効薬ではなく、中長期的な運営体制の基盤強化のために必要なものなので、地道な活動を継続していることが対外的な信用につながると考えています。自己評価～ナビゲーターの訪問調査を通じて、組織のメンバーが自分たち組織の強み・弱みを認識する。そして、ここでの「気づき」をもとに、自分たちの強みを伸ばし、弱みを克服すべく、組織運営を改善していくこそが第三者認証の重要な意義であるといえるでしょう。

STEP3 CERTIFIED

## YAMASHINA DAIGO KODOMO NO HIROBA

PHOTO / SHUNSUKE OSAKI



特定非営利活動法人

### 山科醍醐こどものひろば

地域に住む全てのこどもたちが豊かに育つ社会環境や文化環境を充実させ、こどもたちの伸びやかな育ちに寄与できる団体を目指し活動し、現在前身から32年目を迎える。「子どもを真ん中に」をキーワードに、異年齢集團の中でのこどもたちの体験活動作り、こどもと家族が自由に集まる居場所づくり、子育て相談、生活困窮や養育困難な家庭の子どもの生活や学習の支援などを実施。また、より地域と子どもが結びつく、学校や地域イベントなどへの協力など、地域社会の活性にも取り組んでいる。

—

代表者：理事長 幸重忠孝

所在地：京都市山科区竹鼻地蔵寺南町2-1

T E L・F A X:075-591-0877

W E B:<http://www.kodohiro.com>

# 「他者」や「社会」に開く文化。

TEXT／村井琢哉（山科醍醐こどものひろば）

## 一 「隠さない」がもたらしたもの

社会的、第三者的視点を事業／法人運営に取り入れることは、大きな緊張を組織にもたらしました。このような評価を受けるということは、「できていないこと探し」の「減点方式でジャッジ」されると印象をもっているスタッフも多く、評価を受けるという最初のステップを乗り越えることが大きな課題でした。実際にはセルフチェックの段階では、組織の取り組みの振り返り、運営する上での不足している点の共有、暗黙知になりがちなノウハウの言語化等、「思い」と「アクション」を支える基盤の強化の大切さに気づく機会となりました。そこから第三者によるヒアリングによって、「自分たちにとって十分でも課題解決や社会的観点からすると不足している」とことや「自分たちができるないと思っていたけど、実はできていた点を指摘してもらえる」という機会を得て、組織基盤の強化に取り組むことができました。認証の取り組みを実施したことで、より組織の中を「他者」や「社会」に開くことを恐れずに、公開していく文化が出来つつあります。その成果は活動であればウェブを使った日々の報告、実

践や運営に関する詳細は外部の視察やヒアリング、フィールドワークの受け入れをすることで伝えていくことが増えました。結果、その「隠さない」行為が、多くのボランティアや寄付、一緒に事業をしたいという声を集めることに繋がり、事業実践の質・量が向上しています。どうしても事業を進めると私たちの活動であれば「子ども」とその「関わり方」にばかり知識も技術も関心も集中してしまいます。今後もこのような社会的認証を受ける機会を活かし運営基盤を見つめ直して、よりよい活動を生み出していければと考えています。

## 一 次は社会的なインパクトを評価する

これから取得チャレンジされる方が増えてくるとは思いますが、評価結果はあくまで自分たちの強みと弱みを明確化させ、強みをより効果的に活かす方法と、弱みを強みに変えていく気づきを与えてくれるものとして「やりっぱなし」にせず活かしてほしいと思います。また社会的認証システムを活かしながら、今後自分たちの活動からの社会的なインパクトも評価できる体制もつくっていければと思っています。

STEP3 CERTIFIED

## KYOTO KODOMO CENTER

PHOTO / SHUNSUKE OSAKI



特定非営利活動法人

### 京都子どもセンター

京都子どもセンターは子どもの社会体験や社会参画の機会をひろげ、のびやかで豊かな「子ども時代」を過ごす事ができる環境づくりを目指しています。「子どもの権利条約」の精神にもとづいて、子どもを社会の一員として位置付け、その尊厳を保障するように提起し、子どもと大人が対等な関係に立って社会に向けて活動を創り出すことが、社会全体を変える力になると確信しています。

—

代表者：理事長 竹内香織

所在地：京都市中京区三条通り烏丸西入る御倉町85-1  
烏丸ビル2階 Flag三条

T E L:075-254-8114

F A X:075-254-8115

W E B:<http://kodomo-doki.org>



## 評価を共有することの意味。

TEXT／竹内香織(京都子どもセンター)

### — ありのままの姿が見えた瞬間

自己評価シートが届いた時は、正直なところ項目の多さにひるみました。いつまでも手をこまねいてはいられず、分担して「この書類はあったはず…」「この項目の内容は、この図で説明がつくだろうか?」…一時、年度末・総会準備に忙殺されて…「あれ、どこまで確認したっけ?」と。ボランティアが、互いに日程調整をしながら50項目を埋めるのだから、なかなか集中できず…でした。自己評価の過程は、理事を中心に組織力の強化について検証をした時期とも重なったので、自分たちの強みや弱み、有形無形の財産を、言葉にしたり記録を残したりする習慣がついたように感じます。また、「根拠に基づいて数字で表す」のは苦手意識がありましたが、項目をひとつひとつ確認していくことで、組織の「ありのままの今」が数字として表われ、「なんだ、意外にできるてるじゃん!」と自己尊重感が高まった面もありました。

### — 新しい視点に触れることが出来た

そして臨んだ、第三者評価の当日。「ビジョンや取り組みの方針がわかりやすいで

すね」、「リーフレットやホームページにも同じ言葉で表現されていて、いいですね」、「理念の部分は、個人的にも共感しました!改めてお話しを聞かせてくださいね」と声をかけられ、緊張していた空気がほぐれていきました。準備した書類が見当違いだったり、厳しい指摘があったり、「外からはそういう風に見えるのか」と、新しい視点に触れることも多々。逆に「これこれがあるのだから、ここは当然できますよね」等、自己評価より高い点数になる項目があったことも驚きでした。概ね用件を満たす点数だろう…と予測しながらも、どのような評価が返ってくるのか、少しの不安と興味が入り混じった気分でいました。思えば、個人は毎朝鏡を見たり、定期健診を受けたりするけれど、組織の体力やバランスのチェックは、設立から10年以上はったらかしだったのですね。評価の数字に一喜一憂するばかりではなく、思った以上によかった・悪かった項目は、その理由を共有して、次にめざす姿を語り合いたいですね。

## HISTORY

### 沿革

- 2011.2.7 一般財団法人として社会的認証開発推進機構(AAC)を設立
- 2011.4 京都市下京区に事務所を開設し、運営を開始
- 2011.7 第153回日本経営診断学会関西支部にて、AAC社会的認証システムを発表
- 2011.7 社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)第1号を認証  
(2012.10.1現在で、25団体を認証)
- 2011.7 AAC設立記念シンポジウムを開催
- 2011.8 京都府新しい公共「中間支援団体活動支援事業」に採択される(2011年度)
- 2011.7 龍谷大学大学院NPO・地方行政研究コース地域連携協定締結
- 2012.1 介護・福祉サービス第三者評価機関に認証される
- 2012.3 全国の先進事例として「熊本県NPO法人実態調査報告書」に紹介される
- 2012.5 NHK総合・経済情報番組「サキどり↑」で取材を受け放送される
- 2012.6 京都府新しい公共「中間支援団体活動支援事業」に採択される(2012年度)
- 2012.7 Panasonic「キャバシティビルディング」研修会を協働開催
- 2012.10 社会的養護関係施設第三者評価機関に認証される
- 2012.10 ステップ3ハンドブック発行
- 2012.12 第13回日本評価学会全国大会にて、AAC社会的認証システムを発表

---

### 社会的認証[ステップ3]ハンドブック

2012年10月1日発行

京都府から「中間支援団体活動支援事業」の委託を受けて作成しました。

制作・発行

一般財団法人 社会的認証開発推進機構 (AAC)

〒600-8028 京都市下京区河原町通松原下ル植松町717 幸兵ビル4階

TEL 075-342-0205 FAX 075-342-0206 URL <http://withtrust.jp>

編集責任

平尾剛之 (AAC)

編集担当

齋藤佳津子 (AAC)

編集／デザイン

musubi design

編集／ライター

井狩 恵

撮影

大崎俊典

©一般財団法人 社会的認証開発推進機構

3  
<http://withtrust.jp>